

わたしと笠間 10

孤高の画家 熊谷守一と朝井閑右衛門

笠間日動美術館では12月6日まで「孤高の画家、熊谷守一と朝井閑右衛門」を開催しています。熊谷守一（二八八〇―一九七七）は文化勲章や勲三等を固辞し、無冠の画家として一生を貫いた。私は夫と晩年の熊谷先生を雑司ヶ谷（東京都豊島区）のご自宅に伺ったことがある。門を入ると雑木が散在し、蛙が出てきそうな雰囲気の家であった。こたつに座られていた先生は優しい類笑みを浮かべ、夫に「ほう、お父さんに似てきたね」とおっしゃった。自然を愛し、家族を愛した人柄は、作品からもうかがうことができる。

一方の朝井閑右衛門（一九〇一―一九八三）は生涯に一度も個展を開かず、画集も作るうとしなかった。夫と私は二代目画商として可愛がっていたのだが、人間嫌いというか、電話に出ても面倒だと本人自ら「先生、いないよ」と拒絶していた。美術雑誌のインタビューもほとんど受けていない。

孤高の生き方だったが、このお二人を見ると作品は亡くなった後に一



朝井閑右衛門作「牡丹」

当館の庭園も隠れた紅葉の名所である。紅葉の秋、芸術の秋を満喫していただきたいと思う。

同様に絵を描くことのみを大切にしていた画家、金山平三（一八八三―一九六四）と佐竹徳（一八九七―一九九八）の記念室も開設した。彼らはアトリエでなく現場で自然と向き合っていた。それ故、冷たい雪も美しい紅葉の作品も空気感が感じられる。

笠間日動美術館 副館長 長谷川智恵子

…今月の訪問先…

おだき 小田喜商店

栗の専門店へ地産地消の取組みについて取材してきました。

地産地消に取り組む理由は？

笠間の特産品といえば「栗」ですが、通年で食べられるわけではありません。時期を外した観光客は「笠間の栗」を食べられずに帰ってしまい、笠間の栗のおいしさが伝わらないままとなってしまいかもかもしれません。それではいけないと思い、栗のおいしさそのままを伝えられる商品を作ろうと取り組みました。

どの季節でもおいしい栗を食べられるようにすることが、栗やの使命だと思っています。

地産地消＝食べて、かさま応援！

グルメイトが行く！

地産地消応援団の「笠間グルメイト」が、地産地消協力店をレポートします。この記事に関するお問合せは、農政課（内線527）へ。

一押し地産地消商品「ぎゅ」



「年間通して栗の味を伝えられる商品づくり」のきっかけとなった商品。余計なものは一切入れず、風味の強い新鮮な栗を、まさに「ぎゅぎゅ」と凝縮したお菓子です。ひとくち食べただけで栗そのものの味が口いっぱいひろがっていきましました。キャラメル味がアクセントになっています。



お勧めの食べ方は栗アイスの上にぎゅをトッピングする、栗好きにはたまらない贅沢な組み合わせです。

岩間の栗や 小田喜商店



小田喜 保彦さん(右) 特別顧問・研究員の鹿島 恭子さん(左)

住所／笠間市吉岡185-1
電話／0299-45-2638
営業時間／9:00～19:00



左から、小田喜社長、グルメイトの藤澤厚子さん、青木蘭子さん、鈴木せつ子さん。奥にいるのは小田喜商店オリジナルキャラの栗彦くんです。

取材を終えて 取材中、栗の歴史や特性、おいしい栗の食べ方など、たくさんのお話を伺い、栗への熱い想いが強く伝わってきました。栗を愛していなければ「ぎゅ」は生まれてこなかっただろうなと感じました。このスペースでは書ききれないお話がたくさんあります。ぜひ直接お聞きになってください。（笠間グルメイト）

取材にご協力いただける地産地消協力店を随時募集しています